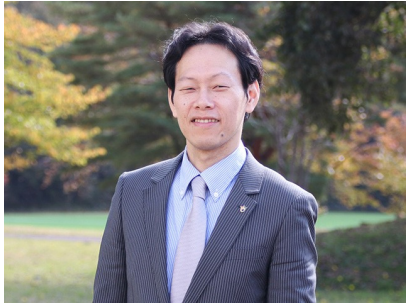


	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（行動科学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	前期では、まず社会学に関するテキストを読み、社会学の対象と方法を理解するとともに、行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。 後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5 時間程度)。 また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5 時間程度)。
履修条件	「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得済みであること、または教職課程の所定の科目を修得し、次年度に教育実習を行う予定であることが望ましい。なお、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認めない。 ・今年度中に「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること(または修得済みであること)
テキスト	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001.
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10・木曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加するようにしたい。 また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくことが期待される。特に、毎回テーマと担当者を決めてスピーチを行うこととしている。担当者は事前に準備してスピーチに臨むこと。 なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（社会学とは何か）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（社会学の方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	問題意識の明確化	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	研究テーマの設定	第21回	文献講読⑪（エスニシティと国家）
第6回	研究テーマの報告・グルーピング	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	文献講読③（自我とコミュニケーション）	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	文献講読④（集団と組織）	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（文化と社会化）	第25回	文献講読⑫（大衆社会と政治）
第10回	文献講読⑥（同調と逸脱）	第26回	文献講読⑬（メディアと大衆）
第11回	文献講読⑦（家族と社会）	第27回	文献講読⑭（現代社会と宗教）
第12回	文献講読⑧（教育と市民社会）	第28回	文献講読⑮（現代社会の諸相）
第13回	文献講読⑨（職業と階層）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（地域社会と生活）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (民法)		
	ゼミ担当者名	鬼塚 隆政		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	講義で習得した民法の知識を、本ゼミナールの判例研究により、反対説も含めた深い理解へと高めることで、具体的な問題の解決策を考えることができる実践的レベルへと高める。
ゼミの到達目標	個別の判例について、事例を正確に理解し法的問題点を整理、説明できる。 その際、反対説の指摘する問題点とこれに対する判例の考え方も理解する。 公務員試験、各種法律系試験等で問われる判例の考え方を確実に身に付ける。
ゼミの概要	判例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行います。 本ゼミナールでは主に1、2年生で履修した分野の判例研究を行います。もちろん、その他の分野への挑戦も歓迎します。 適宜、関連する法分野の知識確認を行います。 担当教員との対話を中心としてゼミナールを進行しますが、当然、報告担当者以外の参加者にも発言を求め、全員でディスカッションを行います。 毎回範囲となる部分を予習し、疑問点を授業で発言してもらいます。 本ゼミナールでは、知識確認のため適宜ミニテストを実施します。 理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。
授業時間外の学習	ゼミナールで扱う範囲について予習して疑問点等を抽出し、ゼミナールで議論する準備をする。 (1. 5時間)
履修条件	民法総則、物権法、債権各論の単位を取得していることがのぞましい。
テキスト	特に指定しません。 各人の所有するテキストで結構です。
参考文献・資料	内田貴他「民法判例集 総則・物権[第2版]」有斐閣 内田貴他「民法判例集 担保物権・債権総論[第3版]」有斐閣 我妻榮他「民法1 総則・物権法 第4版」勁草書房 我妻榮他「民法2 債権法 第4版」勁草書房 我妻榮他「民法3 親族法・相続法 第4版」勁草書房
成績評価の方法	ゼミナール内での担当回の発表内容(70%)と他の学生の発表に対する意見の内容(30%)を総合的に判断して評価します。自分の発表する回を欠席した場合は、大幅に減点します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	講義の時間以外いつでも可 なお、常時国家試験等センターにいます。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。特に、公務員試験、各種法律系試験等を考えている方の参加を歓迎します。 公務員試験、各種法律系試験等を目指す方にとって民法は、大変重要です。 本ゼミナールと大学の講義との連携で、効率的により深く確実な知識の定着を目指しましょう。 理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。

授業計画			
第1回	ガイダンス、研究倫理教育	第17回	後期発表担当者、発表判例決め。
第2回	資料の調べ方、担当決め。	第18回	判例検討・ディスカッション⑭
第3回	判例検討・ディスカッション①	第19回	判例検討・ディスカッション⑮
第4回	判例検討・ディスカッション②	第20回	判例検討・ディスカッション⑯
第5回	判例検討・ディスカッション③	第21回	判例検討・ディスカッション⑰
第6回	判例検討・ディスカッション④	第22回	判例検討・ディスカッション⑱
第7回	判例検討・ディスカッション⑤	第23回	判例検討・ディスカッション⑲
第8回	判例検討・ディスカッション⑥	第24回	判例検討・ディスカッション⑳
第9回	判例検討・ディスカッション⑦	第25回	判例検討・ディスカッション㉑
第10回	判例検討・ディスカッション⑧	第26回	判例検討・ディスカッション㉒
第11回	判例検討・ディスカッション⑨	第27回	判例検討・ディスカッション㉓
第12回	判例検討・ディスカッション⑩	第28回	判例検討・ディスカッション㉔
第13回	判例検討・ディスカッション⑪	第29回	判例検討・ディスカッション㉕
第14回	判例検討・ディスカッション⑫	第30回	判例検討・ディスカッション㉖
第15回	判例検討・ディスカッション⑬	第31回	判例検討・ディスカッション㉗
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	社会政策ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	木村 澄（きむら きよし）		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間にとって、「人生の目的」とは何か？ その目的はいかにして達成できるのか？
ゼミの到達目標	1. 人生100年時代の「幸せを創造する生き方」を考えます。 幸福を決める3つの要因とは？ ①人は幸福度のうち50%が遺伝によって設定されている。②生活環境や状況による違いは10%程度。③幸福になるための40%は日々の意図的な行動にある。何かに没頭している状態を「フロー」という。幸福な人生はフローとリフレーミングによって創られる。 2. 人生100年時代に「新しい働き方」を考えます。 ①自分が興味をいただける分野で「高度な専門技能」を習得すること、②「人間関係の資本」を育むこと、③消費に重きをおくのではなく、創造的に何かを生み出し、「質の高い経験」を大切にする働き方にシフトすることなど。 創造性とイノベーションを発揮してこそ、人間は労働に意義を見いだすことができます。 そのような新しい生き方を理解したうえで、ゼミ研究活動を進めます。そして、その成果をみなさんの職業生活と人生において生かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	これからの職業生活を核とする人生の中で、いかにして「持続的幸福感」を得るのか。その方法を歴史沿革的、法的、政策的、社会的、社会心理学的、心理学的などのさまざまな学問分野を通して考察します。
授業時間外の学習	興味ある研究テーマを考え、関連する研究資料を収集し読み込む。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	【研究に向けた活動（40%）、前期試験（15%）、後期試験（15%）、主体的学びの姿勢(30%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するため、小テストを行うことがあります。 ・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板（ポータルサイト含む）で指示をします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日 3 時間目（13：00～14：30）・木曜日 3 時間目（13：00～14：30） ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとらえて必ず役に立ちます。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。食事会（焼肉）で交流を図りましょう！

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	セリグマンの「WELL-BEING」を再考する	第18回	キャリア・デザイン①
第3回	持続的幸福の構成要素は何か？	第19回	望む自分を作る、新しいビリーフを築く
第4回	構成要素を具体的に考えてみる	第20回	役に立たない暗示を乗り越える
第5回	「VIA 強み診断テスト」再び	第21回	「神経言語プログラミング」簡約①
第6回	チクセントミハイの「FOW 理論」を再考する	第22回	「神経言語プログラミング」簡約②
第7回	仕事に対する考えの矛盾を再考する	第23回	「ニューロ・ヒプノティック・リパターニング」
第8回	人生100年時代を生きる	第24回	問題を「乗り越える」には
第9回	3ステージの人生からマルチステージの人生へ	第25回	問題を「乗り切る」には
第10回	時間という贈り物、無形資産の形成	第26回	問題に「取りかかる」には
第11回	働き方のシフト：未来を形成する要因	第27回	「リフレーミング」を実践する
第12回	幸せの公式：ずっと幸せでいるために必要なこと	第28回	「輝く正方形」を実践する
第13回	「お金で幸せは買えない」再考	第29回	キャリア・デザイン②
第14回	長続きする幸せをもたらす自発的要因とは	第30回	キャリア・デザイン③
第15回	より良い未来を築くには	第31回	人間の幸福な未来を築くには
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	國井ゼミ		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	3年生は各自が目指す就職のための資格取得を目指します。 例えば宅建士、FP 資格、簿記 2 級、証券外務員、税理士科目合格等
ゼミの到達目標	日商簿記検定試験 2 級取得をめざす。また、各自に他の資格試験の受験も指導します。
ゼミの概要	各自の取得状況に合わせて簿記の問題演習・宅建士・
授業時間外の学習	各自、問題演習並びにわからないところは研究室に聞きに来る。
履 修 条 件	学生便覧に掲載されているルールが守れる学生。
テ キ ス ト	各自の進捗状況に合わせて指示する。
参考文献・資料	
成績評価の方法	研究成果(80%)・学習態度(20%)等で総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日 15 時ころより。
成 績 評 価 基 準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	まじめに目標に向けて努力できる学生を希望します。就職内定に向けて総合的に指導します。

授業計画			
第1回	研究倫理教育 宅建士資格取得	第17回	都市計画法① 都市計画・建築制限・開発許可の要否
第2回	民法等① 制限行為能力者制度・意思表示・債務不履行等	第18回	都市計画法② 開発許可の申請・総合
第3回	民法等② 手付・売主の担保責任・危険負担等	第19回	建築基準法① 建築確認・総合・単体規定
第4回	民法等③ 代理・時効・債権譲渡・連帯債務等	第20回	建築基準法② 用途制限・道路・容積率
第5回	民法等④ 保証と連帯保証・委任・請負等	第21回	建築基準法③ 斜線制限・日影制限・用途制限
第6回	民法等⑤ 不法行為・物権変動の對抗要件・抵当権・相続等	第22回	国土利用計画法① 事後届出
第7回	不動産登記法	第23回	国土利用計画法② 事後事前届出
第8回	借地借家法	第24回	農地法 許可・許可届出
第9回	建物区分所有法	第25回	土地区画整理法① 施行者・行為制限・事業計画
第10回	宅建業法① 意味・免許基準・主任者登録	第26回	土地区画整理法② 組合・仮換地・換地処分
第11回	宅建業法② 取引主任者の申請手続き・総合・営業保証金	第27回	宅地造成等規制法① 規制区域
第12回	宅建業法③ 弁済業務保証金・媒介契約・	第28回	宅地造成等規制法② 防災区域
第13回	宅建業法④ 重要事項の説明・37条書面	第29回	その他関連知識① 不動産の鑑定評価
第14回	宅建業法⑤ 従業者名簿・事務所と標識・事務所の規制等	第30回	その他関連知識② 地価公示・不動産取得税・固定資産税
第15回	宅建業法⑥ 広告の規制・取引態様の明示義務等	第31回	その他関連知識③ 譲渡所得・印紙税・登録免許税等
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（安全保障論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点となる事項について研究・討議する。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 安全保障に関し、選択したテーマについて意見を述べ、解説することができる。
ゼミの概要	日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。 世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。 前半は安全保障体制や安全保障政策についてゼミナールⅠで研究した事項をもとに解説するとともに、学生が選択したテーマに沿って研究します。後半は、重要問題から関心のあるテーマを1つ選択し、ゼミナールⅢで行うゼミ論文の前提となるゼミレポートを作成し、安全保障についてさらに理解を深めていきます。
授業時間外の学習	・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 （予習 2 時間程度、復習 2 時間程度）
履修条件	1 次の①～⑤の条件をすべて満たすこと。 ①学生生活入門Ⅰ・Ⅱ、または総合科目Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。 ②国際関係論、安全保障論概論、統治機構、民法総則、行政学Ⅰ、行政学Ⅱ、公共政策論、地域政策論、社会調査の仕方、国際研究入門、防災学概論、観光社会学、国際法のうち少なくとも3科目の単位を修得済みであること。 ③国際関係論特別講義を同時履修すること。 ④第1回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第1回ゼミナール時に配布する。） ⑤履修登録にあたっては、第1回ゼミナール時に担当教員と面接の上、登録許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅠの単位を修得済みであることが望ましい。 3 国際人道法、防災学概論、現代政治論（履修済のものを除く。）を同時履修することが望ましい。 4 ゼミナールは討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。

テ キ ス ト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書（令和6年版）、外交青書（令和6年版）、田村重信ほか『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝蜆新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウェッジ）、徳川信治ほか『テキストブック 法と国際社会（第3版）』（法律文化社）、ヴォーン・ロウ『かんがえる国際法』（白水社）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート及びプレゼンテーション50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14：40～16：10 水曜日 14：40～16：10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待します。 早期に研究発表・レポート作成に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学修と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について） 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠのふりかえり）	第17回	レポート作成準備・テーマの確認・研究の方向性
第2回	国家・領域の問題とは	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	我が国の領土問題	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策とは	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	我が国の防衛政策	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛と治安維持	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	広義の安全保障①	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	広義の安全保障②	第24回	個別指導①
第9回	安全保障と自治体の役割	第25回	個別指導②
第10回	武力攻撃事態とその対処	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護法	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の動き	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	国際平和協力活動①	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	国際平和協力活動②	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	心理学ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	瀬戸 泰		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	心理学は私たちの生活と密接に結びついている「心」と「行動」の働きや法則性を検証していく学問です。本ゼミナールでは、心理学に関する代表的な理論を学ぶとともに、それらをベースとして、自らの研究テーマの方向性を検討し深めていくことを目的とします。
ゼミの到達目標	・心理学の全体像を理解し、それらを通して自らの心や社会的な現象に対する洞察が行えること ・心理学に限らず、論理的で分かりやすい説明が行えるようになるための素養を身につけること ・他者への気配りや思いやりの心と行動を育むこと
ゼミの概要	基本的に毎回、異なる心理学のテーマについて講義や文献講読を通じて理論的な内容を学んでいきます。また、後期はゼミナール研究発表会に向けて、各自でテーマを決めて発表資料の作成を進めていく予定です。
授業時間外の学習	学んだことを日常生活の中で意識的に当てはめて考察・活用するとともに、自身の興味のある研究テーマを見い出す意識を持ってください。
履修条件	心理学に興味があり、ルールを守れる方を履修条件とします。「何となく楽そうだから」といった理由での履修は控えてください（心理学に興味が少ない場合はゼミ参加が苦痛になると考えられますので、自身の興味関心を基準に受講を検討してください）。 ＊ゼミナールⅠ（心理学）を履修していない方は、1 回目のゼミに出席し個別面談を受けて下さい。
テキスト	毎回、レジュメやテキストの写しを配布予定です。
参考文献・資料	必要に応じて、授業中に適宜お知らせします。
成績評価の方法	授業平常点 60%、定期試験（発表・レポート等） 40% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日もしくは火曜日の 10：30 ～ 12：00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学生へのメッセージ	現代は「心の時代」とも言われるように、悩みやストレスをどう和らげていくか、また、ビジネスや行政に心理学をどう活かしていくかなど「心理学 × 様々な領域」に対する注目が集まっています。また、学んだ知識は自身の心のケアや対人面に活かしていけるかもしれません。身近だけれども幅広く奥深い「心理学の世界」を一緒に冒険してみませんか。

授業計画			
第1回	イントロダクション①（ゼミの進め方）	第17回	後期イントロダクション（後期の概要、個別面談）
第2回	イントロダクション②（個別面談）	第18回	統計学の基礎①
第3回	イントロダクション③（学びの要点、研究倫理）	第19回	統計学の基礎②
第4回	心理学の代表的な理論①（文献学習）	第20回	論文講読
第5回	心理学の代表的な理論②（文献学習）	第21回	論文講読
第6回	心理学の代表的な理論③（文献学習）	第22回	論文講読
第7回	心理学の代表的な理論④（文献学習）	第23回	研究の進め方（研究の流れ、文献検索）
第8回	心理学の代表的な理論⑤（文献学習）	第24回	研究テーマの検討
第9回	心理学の代表的な理論⑥（文献学習）	第25回	個別研究①
第10回	論文講読	第26回	個別研究②
第11回	論文講読	第27回	個別指導・助言
第12回	自己理解とキャリアの検討	第28回	個別研究③
第13回	各自興味のあるテーマの論文要約・発表①	第29回	個別研究④
第14回	各自興味のあるテーマの論文要約・発表②	第30回	ゼミ内発表会
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール II (感性データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	津谷 篤		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	感性工学でよく用いられる解析手法を用いて対象としたものの解析を行い、その結果を世の中に役立てる方法を提案する。
ゼミの到達目標	データサイエンスの中でも主に感性工学で用いられる解析手法（主成分分析、対応分析、ネットワーク分析、テキストマイニングなど）を用い、様々な物事のイメージや性質を定量評価できるようになる。そしてその結果の応用法を提案できるようになる。
ゼミの概要	感性工学は、人間の感性という説明しにくいものをアンケートや多変量解析などを用いて数値化し、それをものづくりやマーケティングに活かす学問とも言える「理系と文系の融合領域」です。感性工学でよく用いられる手法を用い、ファッション、音楽、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、観光、食品など、様々なものを解析してみましょう。そしてその結果を世の中への貢献に役立たせる方法を考えましょう。（とはいってもの学問で普通に研究対象となるものにも使用可）。 1 年間の間に次のような流れを解析方法を変えて何回か繰り返します。 1. 解析の PC での計算方法を教わる 2. サンプルデータで解析してみる 3. その解析法が用いられた研究の調査 4. 各々選んだ研究対象に対してその解析を行ってみる 5. 解析結果とその解釈、その役立たせ方をゼミメンバーに紹介する 2 年生時、3 年生時では基本同じような繰り返しで行っていきます。つまり 2 年間続けてゼミに参加した場合、より多くの解析を行ったことになります。4 年生時にはこれまで行った解析結果の中で良かった内容を卒業研究テーマとして選択すればいいでしょう。いくつか良い結果が出たならぜひ学会発表に挑戦してみましょう。
授業時間外の学習	普段から研究テーマさがしをしてほしいです。 解析結果の紹介時にはスライドなどの資料を作成してもらいます。
履 修 条 件	・ノートパソコンを持参する ・「データサイエンス基礎」「ビッグデータと AI」を受講することが好ましい
テ キ ス ト	じっくり学びたい解析法に出会ったときはその都度参考にできるものを紹介します。
参考文献・資料	こちらで資料を用意します。
成績評価の方法	定期試験(20%), ゼミ活動への参加状況(30%), ゼミ内・学内・学外での発表状況(50%) (学会発表高得点) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	金曜日 13:00~17:10 tsuya@nau.ac.jp にご連絡いただけると他の日時も対応可能です。
成績評価基準	秀(100~90 点)、優(89~80 点)、良(79~70 点)、可(69~60 点)、不可(59 点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	感性工学は普通の理系学生や普通の文系学生がたどり着けないいわば「文系であることを活かしたデータサイエンス」であるといえます。その学びを得て、就職活動などを行う際に「私は文系の大学でデータサイエンスの研究を行っていました。」と堂々と言えるようになります。

授業計画			
第1回	研究倫理教育と感性工学研究の紹介	第17回	QGIS を実データに対して使ってみる
第2回	対応分析のやり方の説明	第18回	テキストマイニングのやり方の説明
第3回	サンプルに対して対応分析を行ってみる	第19回	サンプルに対してテキストマイニングを行う
第4回	対応分析が用いられた研究の調査①	第20回	テキストマイニングが用いられた研究の調査①
第5回	対応分析が用いられた研究の調査②	第21回	テキストマイニングが用いられた研究の調査②
第6回	対応分析が用いられた研究の調査③	第22回	テキストマイニングが用いられた研究の調査③
第7回	各々選んだ研究対象に対し対応分析してみる	第23回	各々選んだ研究対象に対しテキストマイニング
第8回	対応分析結果の解釈および応用法をゼミ内で発表	第24回	テキストマイニング結果の解釈および応用法発表
第9回	ネットワーク分析のやり方の説明	第25回	主成分分析のやり方の説明
第10回	サンプルに対してネットワーク分析を行ってみる	第26回	サンプルに対して主成分分析を行ってみる
第11回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査①	第27回	主成分分析が用いられた研究の調査①
第12回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査②	第28回	主成分分析が用いられた研究の調査②
第13回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査③	第29回	主成分分析が用いられた研究の調査③
第14回	各々選んだ研究対象に対しネットワーク分析	第30回	各々選んだ研究対象に対し主成分分析してみる
第15回	ネットワーク分析結果の解釈および応用法を発表	第31回	主成分分析結果の解釈および応用法をゼミ内発表
第16回	地理情報システムソフト QGIS の使い方の説明	第32回	総括

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ【行政学・政治学・公共政策論・地方自治論】		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じ認識し、行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての理解を深めること。ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文(プレゼンテーション)を執筆しましょう。
ゼミの到達目標	①行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探究し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文の執筆およびプレゼンテーションに取り組むこと。
ゼミの概要	➤ テキストあるいはレジュメを輪読する形式とします。また、各自のゼミ論文に向けたテーマ設定や進捗について報告し、話し合う場としましょう。 ➤ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。
授業時間外の学習	➤ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき事前学習(1.5時間)および事後学習(1.5時間)。 ➤ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。
履修条件	➤ ゼミナールⅠを履修していない場合には、第1回(お試し)ゼミに出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。 ➤ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」「公共政策論」「地方創生論」「都市政策論」を未履修の場合、できるだけ履修しましょう。
テキスト	➤ ゼミ参加メンバーと調整して決定
参考文献・資料	『Freiheit: Erinnerungen 1954 - 2021』Angela Merkel, Beate Baumann (Kiepenheuer & Witsch GmbH, 2024) 『コロナ化した世界』岩崎正洋編(勁草書房, 2024) 『地方消滅2』人口戦略会議編(中公新書, 2024) 『質的比較分析(QCA)』パトリック・A・メロ著、東伸一・横山斉理訳(千倉書房, 2023) 『命か経済か: COVID-19と政府の役割』岩崎正洋編(勁草書房, 2023) 『クライエントリズムをめぐる比較政治学』日本比較政治学会編(ミネルヴァ書房, 2022) 『人口減少時代の地域経営政策』川島典子編(晃洋書房, 2022) 『原子力政策と住民参加—日本の経験と東アジアからの示唆』田中良弘(第一法規, 2022) 『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編(勁草書房, 2021)、 『比較政治学方法論批判』大木啓介(日本評論社, 2021) 『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋(ナカニシヤ出版, 2021) 『住民投票の全て』今井一編(『国民投票/住民投票』情報室, 2021) 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann, (Springer VS, 2020) 『新しい地政学』北岡伸一・細谷雄一編(東洋経済新報社, 2020) 『政策はなぜ検証できないのか』西出順郎(勁草書房, 2020) 『原発災害で自治体ができたことできなかったこと』今井照編(公人の友社, 2019) 『東日本大震災大規模調査から読み解く災害対応』稲継裕昭編(第一法規, 2018) 『原発都市』乾康代(幻冬舎ルネッサンス新書, 2018) 『詳説世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社, 2017) 『Federalism and Social Policy』Scott L. Greer and Heather Elliot, (University of Michigan Press, 2019) 『地方創生大全』木下斉(東洋経済新報社, 2016) 『地方分権の国際比較—その原因と中央地方間の権力関係の変化』秋月謙吾、南京兌(慈学社出版, 2016) 『比較政治学入門』岩崎正洋(勁草書房, 2015) 『ウェストミンスター政治の比較研究』R.A.W.ローズ他著、小堀眞裕・加藤雅俊訳(法律文化社, 2015)

	『政策過程の理論分析』岩崎正洋編（三和書籍、2012） 『英国の大都市行政と都市政策 1945-2000』馬場健（敬文堂、2012） 『日本の自治体外交』ブルネンドラ・ジェイン著/今村都南雄監訳（敬文堂、2009） 『比較政治制度論』建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史（有斐閣アルマ、2008） 『新制度論』B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『Politics in Time: History, Institutions, and Social Analysis,』Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research』Gary King, Robert O. Keohane, Sidney Verba, (Princeton University Press, 1994)
成績評価の方法	➤ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%） ➤ レポートあるいは試験（35%） ※ ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4 限および木曜日 4 限
成績評価基準	秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59 点以下）
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	➤ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し（「地方創生論」「都市政策論」参照）、 ➤ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく（「公共政策論」参照）、 ➤ 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である（「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」参照）、 という認識を涵養し共有できる場にしましょう。

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション： 研究倫理教育(全学共通テーマ)	第 17 回	インターミッション：研究活動における不正行為・不適切行為の防止について(全学共通テーマ)
第 2 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識① 秋田市「まちづくり」の岐路①	第 18 回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備①
第 3 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識② 秋田市「まちづくり」の岐路②	第 19 回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備②
第 4 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識③ 秋田市「まちづくり」の岐路③	第 20 回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備③
第 5 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識④ 政党・議会政治と選挙①	第 21 回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備④
第 6 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑤ 政党・議会政治と選挙②	第 22 回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション①
第 7 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑥ 政党・議会政治と選挙③	第 23 回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション②
第 8 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑦ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革①	第 24 回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション③
第 9 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑧ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革②	第 25 回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション④
第 10 回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑨ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革③	第 26 回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議①
第 11 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション①	第 27 回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議②
第 12 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション②	第 28 回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議③
第 13 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション③	第 29 回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議④
第 14 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション④	第 30 回	ゼミナールⅡのまとめとⅢへの展望①
第 15 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション⑤	第 31 回	ゼミナールⅡのまとめとⅢへの展望②
第 16 回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評	第 32 回	定期試験あるいはゼミ論等進捗についての講評

	ゼミナール名	表現文化ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	橋 元 志 保		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国内外の文化・文学について学び、大学生にふさわしい教養を身につけ、グローバルな社会を生きるための社会人基礎力を育成する。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 自然や文化財の保全、文化観光、国内外の文学等の研究を行い、論述やプレゼンテーションを行うことができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の素晴らしい自然や文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリス等の文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化観光や自然・文化財保護、異文化理解、国内外の文学等をテーマに論述およびプレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っていきます。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる論説や小説を、指定された頁まで必ず読んでください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、論文等を読むことを推奨します（2時間程度）。
履修条件	① 表現文化ゼミナールⅠを履修し、単位を修得していること。また、「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかを履修して単位を修得していること。 ② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナールの1回目・2回目もしくは指定された時間）に担当教員と必ず面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は、単位を認定できません）。</u> ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、指導を受け入れること。周囲の人々には思いやりをもって接し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆さんの意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業時に随時、紹介していきます。安江則子編著『世界遺産学への招待』（法律文化社 2011年） 河野 靖『文化遺産の保存と国際協力』（風響社 1995年）武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編『ヨーロッパ学入門』（朝日出版社 2005年）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜日 14:40-16:10 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	ぜひ一緒に、素晴らしい自然や歴史・文化をめぐる旅に出てみませんか。学生時代の友人は人生の宝物とも言われます。共に学びながら、素敵な思い出をたくさん作っていきましょう。
----------------------	---

授業計画			
第1回	研究倫理教育	第17回	ヨーロッパの歴史と文化
第2回	研究テーマを見つけよう	第18回	キリスト教と世界遺産
第3回	UNESCO と世界遺産条約	第19回	ルネサンスと大航海時代
第4回	世界遺産誕生の背景ーヌビアの遺跡群ー	第20回	イギリスの歴史と文化Ⅰ
第5回	世界遺産のグローバル・ストラテジー	第21回	イギリスの歴史と文化Ⅱ
第6回	文化財保護と観光振興	第22回	絶対王政とフランスの文化
第7回	世界遺産と日本の自然・文化	第23回	芸術の都パリとフランス文学
第8回	世界遺産と日本神話	第24回	ハプスブルグ家とウィーンの文化
第9回	日本の文化財の特色と保全	第25回	帝国主義とヨーロッパの文化の伝播
第10回	研究テーマと文献講読	第26回	研究テーマと論述の基礎
第11回	アカデミック・ライティングの基礎	第27回	研究発表Ⅰ（プレゼンテーション）
第12回	プレゼンテーションの基礎	第28回	研究発表Ⅱ（プレゼンテーション）
第13回	グループ・ディスカッションの実践	第29回	研究発表Ⅲ（プレゼンテーション）
第14回	個人面談	第30回	個人面談
第15回	キャリア・プランニングⅠ	第31回	キャリア・プランニングⅡ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	花田 富二夫		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本伝統芸能史論
ゼミの到達目標	日本の伝統芸能に関する理解を深める。
ゼミの概要	日本の能楽、人形浄瑠璃、歌舞伎について学習する。DVD鑑賞を行う。
授業時間外の学習	秋田県の伝統芸能について調査・収集を行うこと。
履修条件	特になし
テキスト	特になし
参考文献・資料	授業時に指示する。
成績評価の方法	ゼミへの貢献度及び授業時の提出課題を重視する。これらを総合判断して評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4 限（14:40～16:10）
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミであるので、積極的にかつ主体的に取り組むこと。欠席・遅刻は必ず連絡する責任感を持つことが必須。

授業計画			
第1回	研究倫理教育、ガイダンス	第17回	秋田県の芸能調査
第2回	日本芸能史概略、能楽（1）	第18回	秋田県の芸能調査
第3回	能楽（2）	第19回	秋田県の芸能調査
第4回	能楽「隅田川」（1）	第20回	秋田県の芸能調査
第5回	能楽「隅田川」（2）	第21回	秋田県の芸能調査
第6回	人形浄瑠璃（1）	第22回	秋田県の芸能中間発表
第7回	人形浄瑠璃（2）	第23回	秋田県の芸能中間発表
第8回	人形浄瑠璃「曽根崎心中」（1）	第24回	秋田県の芸能中間発表
第9回	人形浄瑠璃「曽根崎心中」（2）	第25回	秋田県の芸能中間発表
第10回	歌舞伎（1）	第26回	秋田県の芸能調査修正 パワーポイント作成
第11回	歌舞伎（2）	第27回	秋田県の芸能調査修正 パワーポイント作成
第12回	歌舞伎（3）	第28回	秋田県の芸能調査修正 パワーポイント作成
第13回	歌舞伎「勧進帳」（1）	第29回	秋田県の芸能調査最終発表
第14回	歌舞伎「勧進帳」（2）	第30回	秋田県の芸能調査最終発表
第15回	日本芸能論まとめ	第31回	秋田県の芸能調査最終発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	日本経済のマクロ分析Ⅱ		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	◆対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を探りその実態を明確にする。3年次は大きな問題点を個別に掘り下げる。
ゼミの到達目標	日本経済の主要な問題点である、公的社会保障問題、マイナス金利まで踏みこんだ金融政策の収束方法という金融政策問題、そして日本の国家財政の3点に絞って深く学びます。
ゼミの概要	3年次ということで、上記の2点について深く学ぶため輪読と意見発表の展開で進めます。3点についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論をして下さい。また、この1年で自分の研究テーマを絞って下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞を読む習慣をつけること（ゼミの最初に、その日の記事について質問します）
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、生活経済学、経済成長論の単位を取得済みかまたは同時履修すること。
テキスト	予定「日本が先進国から脱落する日」野口悠紀雄プレジデント社 「日本銀行 我が国に迫る危機」河村小百合 講談社新書
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 「マイナス金利」徳勝玲子 東洋経済新報社 日本経済と財政危機の本質シリーズ7「社会保障の構造問題－健康保険と医療保険の実態」深澤泰郎、同シリーズ11「高齢者がピュリズムに侵された国、日本！」深澤泰郎、その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表（70%）、まとめのレポート（30%） ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業の株価と日本経済は別ものです。株価が最高値を付けたとしても日本の将来については、人口動態を主因としてマクロ経済的には、非常に暗い展望しか描けません。 その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にもさらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。 国全体は豊かにならない中で、個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。 * 受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。またゼミでパソコンを使用して、経済データの分析(相関関係など)、グラフ作成を行う場合があります。
授業計画	

第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について（研究倫理教育） 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	日本の税制と社会保障	第18回	効果なしと分かっていた量的緩和をなぜ繰り返したのか？
第3回	消費税の構造と課題	第19回	弊害の大きいマイナス金利と長期金利操作
第4回	個人所得課税への期待と限界	第20回	物価上昇率目標は達成できず
第5回	年金財政 世代交代の視点と年金財政改革	第21回	消費を増加させず、格差が拡大（1） 賃金
第6回	年金制度	第22回	消費を増加させず、格差が拡大（2） 円安
第7回	健康保険財政との構造と高齢者医療制度	第23回	世界は金融緩和政策からの脱却を目指したが……
第8回	国民皆保険の現状と改革の指針	第24回	出口に立ちふさがる深刻な障害（1） 日銀の状況
第9回	給付付き税額控除の可能性と課題	第25回	出口に立ちふさがる深刻な障害（2） マクロ経済
第10回	2024年度の公的年金の財政検証について（1）	第26回	ひそかに進む金融・経済の浸食
第11回	2024年度の公的年金の財政検証について（2）	第27回	ジャパンプレミアムが映す日本経済
第12回	社会保険の構造問題 健康保険と医療財政の実態	第28回	第17回～第25回のまとめとレポート作成
第13回	高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！	第29回	レポート作成
第14回	第2回～第12回のまとめとレポート作成	第30回	レポート作成発表と討論
第15回	レポート発表と討論	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ビジネス・企業ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	道端忠孝		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	ビジネス・企業において事業展開が求められる SDGs（持続可能な開発目標）・ESG（環境・社会・ガバナンス）を理解する。特に、就職先として考える企業のコーポレートガバナンスを理解し、その企業の SDGs・ESG 事業を考察し、これからの SDGs・ESG 事業の展開を考える。
ゼミの到達目標	企業のコーポレートガバナンスを理解できること。 将来就職する会社などの SDGs・ESG 事業の展開について理解し、そのあり方を考えられるようになること。
ゼミの概要	企業のコーポレートガバナンスを理解し、ビジネス・企業において求められるサステナビリティ（SDGs・ESG）事業を理解して、サステナビリティガバナンスを考えられるようにしたい。 ゼミでは、最終的には、就職で希望する株式会社や、興味ある株式会社等の調査研究をレポート課題として取り上げ、報告してもらいます。ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書及び配布資料に必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。（1.5 時間程度） 2. 授業開始前に、前回講義内容の確認テストを行います。前回講義の復習をしっかりと行ってください。（1.5 時間程度） 3. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。（0.5 時間程度）
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	授業で適宜紹介します。
成績評価の方法	レポート報告（60%）・レポート提出（40%） ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・レポート課題は原則としてポータルサイトで指示します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日 13：00～14：30、金曜日 14：40～16：10
成績評価基準	秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59 点以下）
学生へのメッセージ	ビジネス・企業において求められるサステナビリティ（SDGs・ESG）事業のあり方を理解し、就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	企業のSDGsの取り組み①
第2回	秋田銀行コーポレートガバナンスの考察	第18回	企業のSDGsの取り組み②
第3回	JA（共済連）コーポレートガバナンスの考察	第19回	SDGsと企業の社会的責任の違い
第4回	サントリーコーポレートガバナンスの考察	第20回	SDGsとESGの違い
第5回	住友不動産コーポレートガバナンスの考察	第21回	サステナビリティ報告書の研究①
第6回	星野リゾート（リート法人）コーポレートガバナンスの考察	第22回	サステナビリティ報告書の研究②
第7回	企業研究①	第23回	サステナビリティ報告書の研究③
第8回	企業研究②	第24回	私の選んだ企業のサステナビリティ報告書①
第9回	企業研究③	第25回	私の選んだ企業のサステナビリティ報告書②
第10回	企業研究④	第26回	私の選んだ企業のサステナビリティ報告書③
第11回	私の選んだ企業のコーポレートガバナンスの概要A	第27回	サステナビリティ・ガバナンス①
第12回	私の選んだ企業のコーポレートガバナンスの概要B	第28回	サステナビリティ・ガバナンス②
第13回	私の選んだ企業のコーポレートガバナンスの概要C	第29回	レポートの作成③（私の選らんだ企業）
第14回	レポートの作成①（私の選らんだ企業）	第30回	パワーポイントの作成①（私の選らんだ企業）
第15回	レポートの作成②（私の選らんだ企業）	第31回	パワーポイントの作成②（私の選らんだ企業）
第16回	定期試験（レポート中間報告）	第32回	定期試験（レポート提出・報告）

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（労働経済学・マイクロデータ分析）		
	ゼミ担当者名	森本 敦志		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	1. 経済データ分析に基づく研究を行います。 2. 全国的な論文大会へ出場し、入賞を目指します。
ゼミの到達目標	Pythonを用いて、データ分析を行うスキルを身につける。
ゼミの概要	本ゼミでは、グループワークで研究を行います。ISFJなどの全国的なゼミ論文大会へ出場し、入賞を目指します。
授業時間外の学習	自分が興味を持っている分野の研究論文を読んでください。経済学分野の論文は英語で書かれているものが多いので、英語の学習も行ってください。
履修条件	
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
参考文献・資料	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
成績評価の方法	ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 50%、研究成果の発表と貢献度 50%の割合で評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日 9:00～10:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	研究の基本となる回帰分析や、データの操作について学びます。さらに因果推定に必要な様々な手法（パネルデータ分析、操作変数法、DID等）も学びます。データ分析はPythonを用いて行います。研究はグループワークで行います。他のメンバーと協調しながら研究を行ってください。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育と活動方針の説明	第17回	研究計画の策定
第2回	Python によるデータ分析の実習	第18回	研究計画の策定
第3回	Python によるデータ分析の実習	第19回	研究計画の策定
第4回	Python によるデータ分析の実習	第20回	研究計画の策定
第5回	Python によるデータ分析の実習	第21回	研究論文の執筆
第6回	Python によるデータ分析の実習	第22回	研究論文の執筆
第7回	実証研究の文献サーベイ	第23回	研究論文の執筆
第8回	実証研究の文献サーベイ	第24回	研究論文の執筆
第9回	実証研究の文献サーベイ	第25回	研究論文の執筆
第10回	実証研究の文献サーベイ	第26回	研究論文の執筆
第11回	実証研究の文献サーベイ	第27回	研究論文の執筆
第12回	実証研究の文献サーベイ	第28回	研究発表
第13回	実証研究の文献サーベイ	第29回	研究発表
第14回	実証研究の文献サーベイ	第30回	研究発表
第15回	実証研究の文献サーベイ	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	憲法ゼミナール		
	ゼミ担当者名	渡部 毅		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3 年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	各人が関心を持っている憲法や行政法、地方行政等に関する課題について、問題点を抽出し、それに関する判例・学説の検討を行い、その理解を深めることを目標とする。
ゼミの到達目標	憲法、行政法、地方行政に関する課題の検討や分析を通じて、公法分野の基本的な考え方を理解し、説明できる。
ゼミの概要	このゼミでは、「統治機構」や「人権」、「行政法総論」等で学修した内容を踏まえ、公法分野の発展的な研究を行っていきます。第一に、典型的な事例問題や判例をベースにした問題、理論的な問題や時事的な問題など、種々の問題演習と検討を通して内容を再復習します。ゼミ生には、公法分野の基礎を再確認してもらい、その上で、具体的な問題において憲法や行政法がどのような役割を果たしているか、また教科書に説明されている諸理論が、具体的事件の中でどのように使われているか（使われるべきか）の理解を深めてもらいたいと考えています。 また、総合政策学部では、毎年 12 月にゼミナール発表会を行っています。それぞれのゼミ生に関心のあるテーマを設定してもらい、それを調べて資料にまとめ、発表を行うことも目指します。ゼミは、積極的に参加することが求められる場ですので、ゼミのさまざまな活動に自ら進んで役割を果たす学生を求めます。なお、参加人数や個々のゼミ生の要望、大学行事の関係等により、ゼミの進行方法を変更することがあります。
授業時間外の学習	特に指定はしませんが、さまざまな社会課題が、憲法や行政法の視点から何が問題になるのかを常に考えてみましょう。他の報告者の発表については、ゼミの議論を踏まえて内容の確認を行ってください。
履 修 条 件	「統治機構」や「人権」は履修済みであることが望ましい。
テ キ ス ト	各自が使用している憲法の教科書・判例集
参考文献・資料	定評のある基本書を参考にしてしてください。ゼミにおいても、適宜、紹介します。
成績評価の方法	レポーターとしての報告内容(40%)、参加態度(40%)、定期試験 20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 15 : 00～16 : 00 木曜日 15 : 00～16 : 00
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	公法分野の様々な社会課題について、憲法的視座から考える力を伸ばしていきましょう。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育	第17回	後期のガイダンス
第2回	報告の仕方・文献の調べ方について	第18回	研究成果の作成 (1)
第3回	憲法・行政法問題の復習 (1)	第19回	研究成果の作成 (2)
第4回	憲法・行政法問題の復習 (2)	第20回	研究成果の作成 (3)
第5回	憲法・行政法問題の復習 (3)	第21回	研究成果の作成 (4)
第6回	憲法・行政法問題の復習 (4)	第22回	研究成果の作成 (5)
第7回	憲法・行政法問題の復習 (5)	第23回	研究成果の作成 (6)
第8回	各人の研究内容の検討	第24回	ゼミ内発表 (1)
第9回	各人の研究内容 (仮題) の決定	第25回	ゼミ内発表 (2)
第10回	各人の研究計画の策定	第26回	ゼミ内発表 (3)
第11回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (1)	第27回	ゼミナール発表会に向けての準備 (1)
第12回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (2)	第28回	ゼミナール発表会に向けての準備 (2)
第13回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (3)	第29回	ゼミナール発表会に向けての準備 (3)
第14回	研究の中間報告	第30回	事後学修
第15回	前期のまとめ	第31回	事後学修
第16回	定期試験	第32回	定期試験